

「2017年度決算」説明会

主な質疑応答

1. 航空・宇宙・防衛事業領域の今後の収益性について

(1) 2018年度の営業利益見通しの、2017年度実績比増減要因に関する主な内容は？

- ・ 売上高の増減による減益（▲240億円）の大半は、採算性が悪い量産初期段階のエンジンである、PW1100G-JMの販売台数の大幅増加によるもの。
- ・ 工事採算の変動による増益（+150億円）は、スペアパーツの販売増加と、量産初期不具合対応として2017年度に処理した費用の解消が主な要因。

(2) 2019年度の利益見通しは？

- ・ 採算性が悪い量産初期段階のエンジンであるPW1100G-JMの販売台数増加のタイミングが当初想定よりも遅く、700台を超える販売を予想している2018年度が、民間航空エンジン事業の業績面での底になるだろう。
- ・ その後は、習熟効果によるコストダウンとアフターマーケットの堅調な拡大などにより、2019年度以降の業績は回復すると予想している。
- ・ 一方で、Passport20やGE9Xといった新型エンジンの生産も2018年度以降順次本格的に立ち上がる予定なので、これら新機種増産への着実な対応とコストダウンを推進しなければならない。

(3) スペアパーツの販売を含む、アフターマーケット拡大の背景は？

- ・ 旺盛な旅客需要の他に、以下の2点の要因が考えられる。
 - ・ 現時点では上昇傾向にあるものの、原油価格が長期低迷していることから、エアライン各社の収益性が向上しており、適切なタイミングでエンジンのメンテナンスが実施されている。
 - ・ IHIがプログラムに参画しているエンジンの好調な販売状況。一例として、GEnxエンジンは、想定よりもかなり早い段階で受注累計2,000台を突破している。

2. 資源・エネルギー・環境事業領域と産業システム・汎用機械事業領域の2018年度の営業利益見通しが、「グループ経営方針2016」の当初目標水準を下回っているが、この理由は？

- ・ 資源・エネルギー・環境事業領域については、外部環境変化が大きく、2018年度の売上高見通しは、当初目標としていた水準を大きく下回っている。市場動向を見極めつつ、事業領域全体を見渡した上で、リソースの最適かつ有効な配分を行うことによる改善を図る。
- ・ 産業システム・汎用機械事業領域については、多くのSBUにおいて進捗が遅れ気味のアフターマーケットへの対応を加速させることによって、収益性改善を目指す。
- ・ これらのことを実行し、業績見通しに織り込んでいるリスクバッファを発現させず、利益として計上する結果につなげたい。

3. 産業システム・汎用機械事業領域の営業利益に関して、2017年度に続いて、2018年度も増益見通しとなる理由は？
- ・ 2017年度の営業利益実績が当初見通しに比べて増益となった主な理由は、車両過給機の中国市場を中心とした販売増加。2018年度は、前年度に一部海外子会社で15か月決算を実施した影響もあり、車両過給機の売上高が減少すると予想しているため、売上高増加による増益は見込めない。
 - ・ 一方で、回転機械を中心とする、車両過給機以外のSBUにおける、アフターマーケットへの注力による増益を、2018年度の営業利益見通しに織り込んでいる。
4. 2018年度に計画している設備投資額770億円の主な内容、考え方は？
- ・ 主な内容は以下のとおり。
 - ・ 民間航空エンジン : 新機種増産および整備事業の急拡大に対応
 - ・ 車両過給機 : 市場拡大への対応とグローバルネットワーク整備
 - ・ 都市開発 : 保有不動産の価値向上
 - ・ 2017年度に導入した事業領域制のもとで、中長期的な成長が見込まれる事業に対して、集中的かつ選択的に、研究開発・設備投資・投融資に要する資金を投入する。2016年度からの3か年については、優先投資対象に選定した10SBUに対して、65%の予算を割り当てている。
5. ジャパン マリンユナイテッド株式会社（以下、JMU）の経営への関与に対する考え方は？
- ・ 経営改善の主体はあくまでJMUだが、IHIも株主として、経営協議にこれまで以上に関与する方針であり、適正な受注水準や円高にも対応可能な体質改善策などについて協議している。

以上